

基本編 もくじ

基本編 もくじ.....	1
--------------	---

1章 パソコンの取り扱い3

1 各部の名称 ー外観図ー	4
1 タブレット前面図.....	4
2 タブレット右側面図.....	6
3 タブレット背面図.....	8
2 電源を入れる／切る	9
1 電源コードとACアダプターを接続する.....	9
2 電源を入れる.....	11
3 電源を切る.....	13
4 スリープ.....	18
5 休止状態.....	22
6 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する.....	23
3 バッテリーについて	24
1 バッテリー充電量を確認する.....	25
2 バッテリーを充電する.....	27
4 省電力の設定をする	30
1 電源オプション.....	30
2 TOSHIBA ecoユーティリティ.....	32
3 その他のユーティリティ.....	35
5 TOSHIBA Desk Bandについて	38
6 TOSHIBA Flash Cardsについて	39

付録 43

- 1** ご使用にあたってのお願い 44
- 2** 技術基準適合について 46
- 3** 外形寸法図 49

1 章

パソコンの取り扱い

この章では、パソコンの各部の名称や電源を入れる／切る方法について説明しています。

1	各部の名称 -外観図-	4
2	電源を入れる／切る	9
3	バッテリーについて	24
4	省電力の設定をする	30
5	TOSHIBA Desk Bandについて	38
6	TOSHIBA Flash Cardsについて	39

1

各部の名称

— 外観図 —

1章

パソコンの取り扱い

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれの詳細は、本書または『活用編』を確認してください。

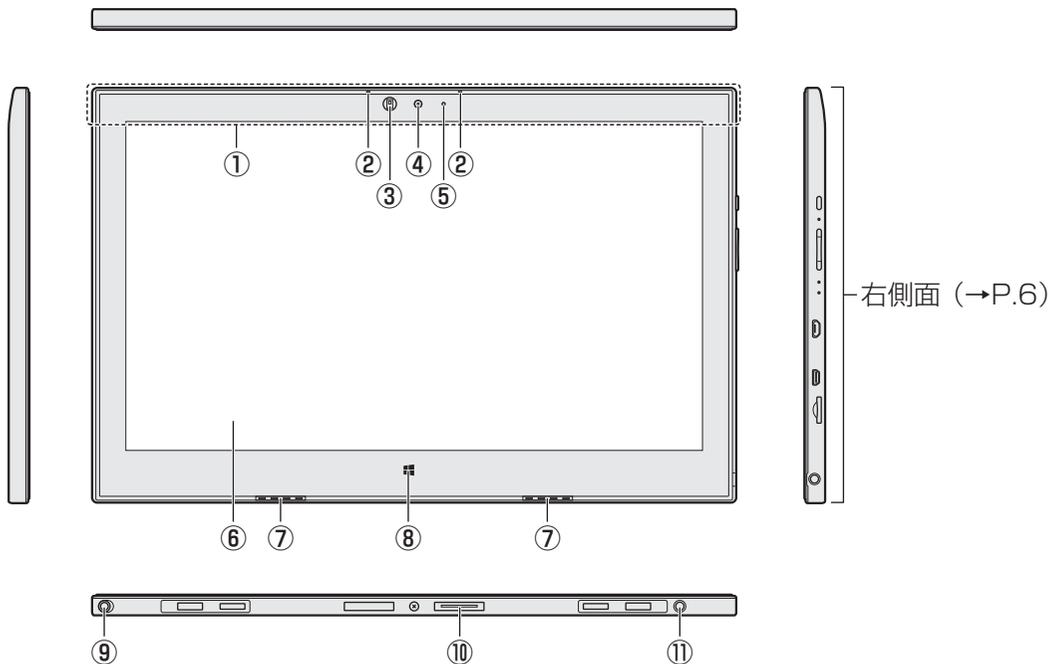
⚠ 注意

- 本製品を持って振り回さない
ご使用の際には、必ず周囲の安全を確認し、本製品をしっかり握り、必要以上に振り回さないでください。
ほかの人にぶつかけたりして、けがをさせるおそれがあります。

お願い 外観図について

- 本製品に表示されているコネクタ/LED/スイッチのマーク（アイコン）は最大構成を想定しています。ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

1 タブレット前面図

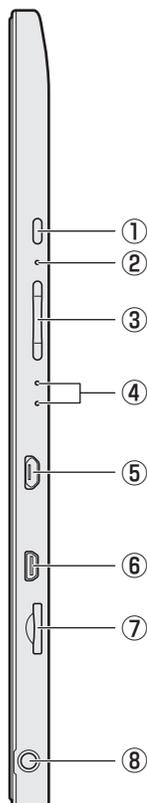


- ① この部分に無線通信用のアンテナが内蔵されています。
- ② **マイク**
2つのマイクでノイズキャンセルして、モノラルとして使用します。
- ③ **照度センサー**
* Windows 8.1 でのみ有効です。
この部分に本体ディスプレイの明るさを自動調整するためのセンサーが内蔵されています。照度センサーをふさがないでください。正常に調整されない場合があります。
- ④ **Webカメラ**
写真や動画を撮影するためのものです。
- ⑤ **Webカメラインジケータ**
- ⑥ **ディスプレイ（画面）**
- ⑦ **スピーカー**
- ⑧ **Windows ボタン**
画面を切り替えます。
- ⑨ **リザーブペン**
* ペン付属モデルのみ
参照▶ ペンについて、ペンボタンとテールスイッチを無効にするには『活用編』
- ⑩ **ドッキングポート**
キーボードドックを接続できます。
参照▶ キーボードドックの取り扱いについて『キーボードドックに付属の説明書』
- ⑪ **電源コネクタ**

2 タブレット右側面図

1章

パソコンの取り扱い



① 電源スイッチ

② シャットダウンホール

パソコンが応答しない場合は、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。

参照 『困ったときは』の「Q&A集」

③ 音量ボタン（音量大（+）、音量小（-）ボタン）

音量を調整します。

④ システムインジケータ

⑤ microUSB コネクタ

USB対応機器を接続します。USB2.0規格に対応しています。

⑥ HDMI HDMI (micro) 出力端子

HDMI (micro) ケーブルを接続して、HDMI入力対応機器（テレビ、外部ディスプレイなど）に本製品の映像を表示します。

⑦ microSD カードスロット

microSD メモリカードをセットします。

⑧ マイク入力/ヘッドホン出力端子

マイクロホンやヘッドホンを接続します。
マイク入力時はモノラル音声となります。

⚠ 注意

- クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する
先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

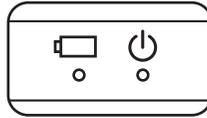
お願い

■ シャットダウンホールについて

- パソコンが応答しない場合は、先の細い丈夫なものでシャットダウンホールを押してください。
電源が切れます。
その際に保存されていないデータは消失します。

1 システムインジケータ

システムインジケータは、点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。

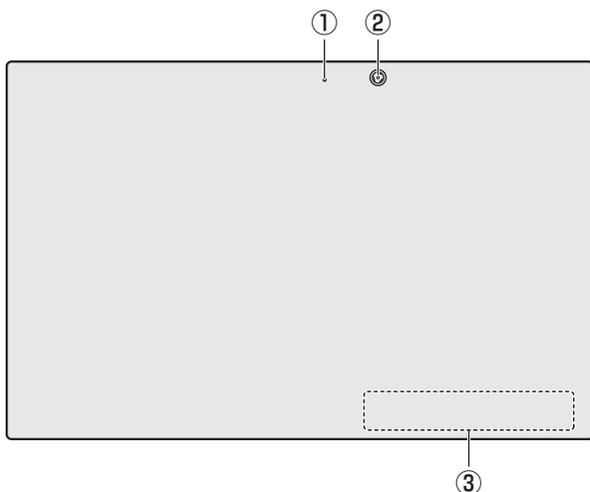


	Battery LED	電源コードとACアダプター接続の状態やバッテリーの状態 参照 ▶「本章 2 - 2 - 電源とバッテリーに関する表示」
	Power LED	電源の状態 参照 ▶「本章 2 - 2 - 電源とバッテリーに関する表示」

3 タブレット背面図

1 章

パソコンの取り扱い



① Webカメラインジケーター

② Webカメラ

③ 型番と製造番号

型番（機種名）と製造番号が記載されています。

※バッテリーパックは本製品に内蔵されています。

⚠ 危険

- 本製品に内蔵されているバッテリーパックを使用する
お客様ご自身でのバッテリーパックの取りはずしや交換はできません。
寿命などで交換する場合のお問い合わせ先は、『困ったときは』を確認してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

参照 お問い合わせ先『困ったときは 付録 2 サービス&サポートのご案内』

お願い

■ 本製品のメモリについて

- メモリの交換・増設はできません。

■ 本製品の背面について

- 本製品の背面には、正規のWindowsであることを証明する、「Windows 8」というMicrosoft®のラベルが貼ってあります。
はがしたり汚したりしないでください。

■ 機器への強い衝撃や外圧について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 『はじめに』

1 電源コードとACアダプターを接続する

 警告

- ACアダプターは本製品に付属のものを使用する
本製品付属以外のACアダプターを使用すると電圧や（+）（-）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプターを接続する場合、本書に記載してある順番を守って接続する順番を守らないと、ACアダプターのプラグが帯電し、感電またはけがをする場合があります。
また、ACアダプターのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

 注意

- 付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター以外には使用しない
付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター専用です。

お願い 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて

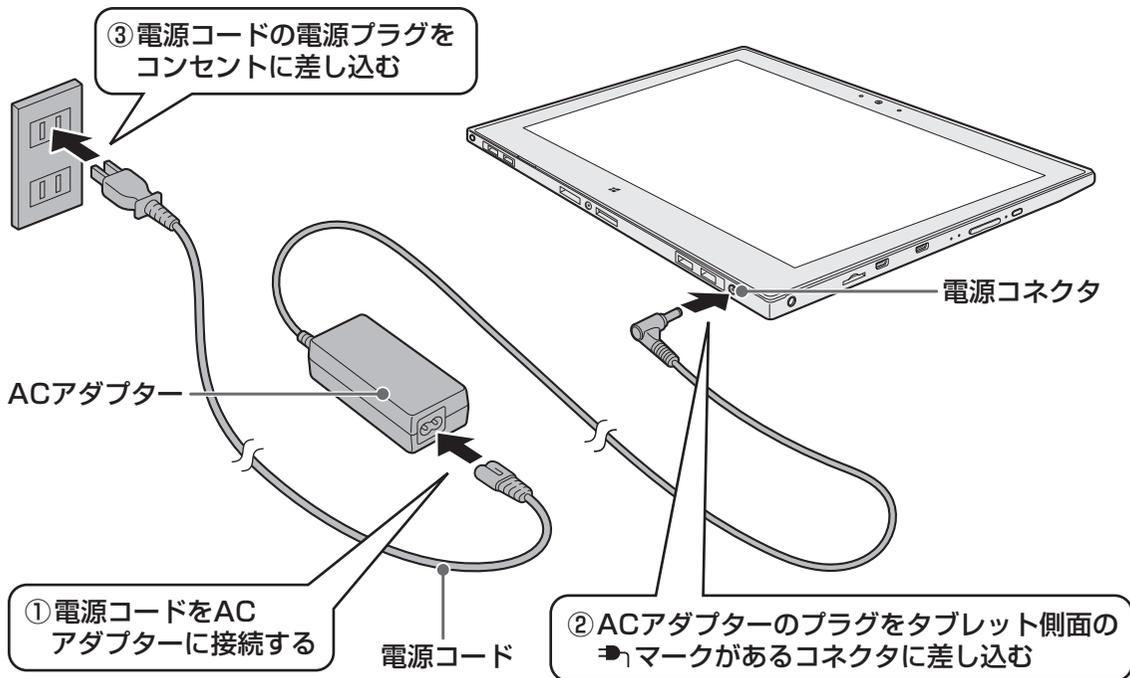
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 **1 - 1** 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて」

2 電源を入れる／切る

次の図の①→②→③の順で行ってください。

1章 パソコンの取り扱い



接続すると

システムインジケータのBattery LEDがオレンジ色に点灯し、バッテリーへの充電が自動的に始まります。Battery LEDが白色に点灯したら、充電完了です。

参照 ▶ Battery LED「本節 2 - 電源とバッテリーに関する表示」

メモ

- バッテリー充電中でもパソコンを使用することができます。

参照 ▶ 「本章 3 - 2 バッテリーを充電する」

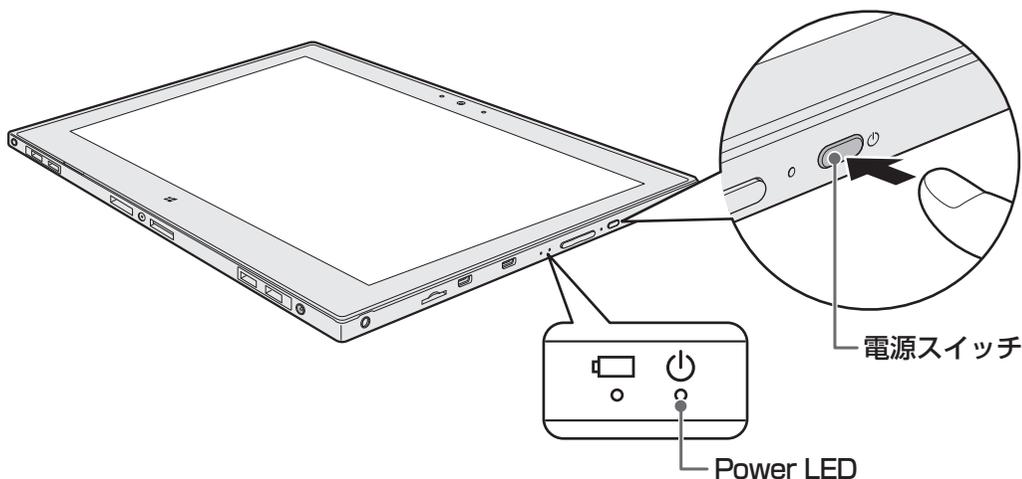
2 電源を入れる

お願い 電源を入れるときは

- ディスプレイ（画面）に触れたまま電源を入れしないでください。ディスプレイ（画面）が一時的に反応しない場合があります。

1 電源スイッチを押し、指をはなす

確実に電源スイッチを押してください。Power LEDが白色に点灯することを確認してください。



初めて電源を入れたときは、Windowsのセットアップを行ってください。

参照 ▶ Windowsのセットアップ『はじめに』

■ 各種パスワードを設定している場合

パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップしてください。

Windows 7のパスワードを入力する画面に、タッチキーボードが表示されていない場合は、画面左下の [タッチ キーボードの表示/非表示の切り替え] アイコン（キーボードのアイコン）をタップしてください。

■ Windows 8.1 の場合

ロック画面（画面左下に大きく日時が表示されている状態）が表示された場合は、画面の下側から上に向かってスワイプしてください。次の画面に進みます。

複数のユーザーで1台のパソコンを使用している場合、表示されているユーザーとは違うユーザーでサインインしたいときは、[ユーザーの切り替え] ボタン（) をタップしてください。ユーザーの一覧が表示され、希望のユーザーを選択できます。

電源とバッテリーに関する表示

電源とバッテリーの状態は各LEDの点灯状態で確認することができます。

電源とバッテリーに関係あるLEDとそれぞれの意味は次のとおりです。

	状態	パソコン本体の状態
Battery  LED	白色の点灯	電源コードとACアダプターを接続している (バッテリー充電完了)
	オレンジ色の点灯	電源コードとACアダプターを接続している (バッテリー充電中)
	オレンジ色の点滅	充電が必要
	白色の点滅	故障の可能性がある 東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
	消灯	電源コードとACアダプターを接続していない 電源コードとACアダプターを接続していても 消灯している場合は、バッテリー異常の可能性 があります。東芝PCあんしんサポートに連絡 してください。
Power  LED	白色の点灯	電源ON
	白色の点滅	スリープ中
	消灯	電源OFF、休止状態

* 電源とバッテリーに関するトラブルについては、『困ったときは』の「Q&A集」を参照してください。

3 電源を切る

パソコンを使い終わったとき、電源を切る「シャットダウン」を行ってください。間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失ったりするおそれがあります。中断するときは、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する「スリープ」があります。

参照 ▶ スリープについて「本節 4 スリープ」

警告

● 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る

パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。

- ・無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。

■ Windows 8.1 の場合

- ①チャームの「設定」をタップする
- ②() をタップし、「ネットワーク」画面で「機内モード」を「オン」に設定する

■ Windows 7 の場合

「TOSHIBA Flash Cards」の「ワイヤレス」のカードで無効にすることができます。「ワイヤレス」のカードをタップして、表示されたアイコン群から  をタップしてください。

- ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
- ・電源を切った状態で待機中でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- SSDやメディアへのアクセス中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。
- 記録メディア保護のため、記録メディアを取りはずしてください。

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアやUSB接続型の外付けハードディスクドライブなどとのデータの読み出し、保存（書き込み）が完全に終了していることを確認してください。
データのアクセス途中でスリープを実行すると、データの読み出し、保存が正しく行われません。

中断したときは

- スリープ中にバッテリー残量が減少した場合は、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押しっぱなし電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

ハイブリッド スリープのときは

- ハイブリッド スリープを有効にしているとき、スリープを実行するとすぐに画面は真っ暗になりますが、しばらくの間はSSDへのデータ保存が行われています。SSDへのアクセス中は、パソコン本体を動かさないでください。

Windows 8.1 で電源を切るには

1 スタート画面右上の [電源オプション] () をタップする

2 表示されたメニューから [シャットダウン] をタップする



(表示例)

Windows を終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power  LEDが消灯します。

 メモ

- タスクバーの [スタート] アイコン () を長押しして、表示されるメニューから [シャットダウン] または [サインアウト] → [シャットダウン] をタップしても、電源を切ることができます。
- システムが操作できなくなり、電源を切ることができない場合は、電源スイッチを5秒以上押し、強制的に電源を切る (強制終了) ことができます。
強制終了は、システムが操作できなくなったとき以外には行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になり、保存していないデータは消失します。

お願い 電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器 (周辺機器) の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。
- Windows 8.1 の場合、周辺機器の取り付け／取りはずし、BIOS セットアップの設定などを行うときは、以下の手順で電源を切ってください。
 - ① 画面の右端から左に向かってスワイプしてチャームを表示する
 - ② [設定] をタップする
 - ③ [PC 設定の変更] をタップする
 - ④ [保守と管理] → [回復] の [今すぐ再起動する] をタップする
 - ⑤ [オプションの選択] 画面で [PC の電源を切る] をタップする

Windows 7で電源を切るには

1章

パソコンの取り扱い

1 [スタート] ボタンをタップする



2 [シャットダウン] をタップする



Windows を終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power  LEDが消灯します。

お願い 電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう一度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。再起動するには、次のように操作してください。

■ Windows 8.1 の場合

1 スタート画面右上の【電源オプション】() をタップする

2 表示されたメニューから【再起動】をタップする



(表示例)

パソコンが再起動します。

 **メモ**

- タスクバーの【スタート】アイコン() を長押しして、表示されるメニューから【シャットダウン】または【サインアウト】 → 【再起動】をタップしても、再起動することができます。

■ Windows 7 の場合

1 【スタート】 ボタンをタップする



2  をタップし①、表示されたメニューから【再起動】をタップする②



(表示例)

4 スリープ

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。次に電源スイッチを押したときに、すばやく中断したときの状態を再現することができます。

スリープ中はバッテリーを消耗しますので、電源コードとACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

参照 ▶ ハイブリッドスリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1 スリープの実行方法

■ Windows 8.1 の場合

1 スタート画面右上の【電源オプション】() をタップする

2 表示されたメニューから【スリープ】をタップする



(表示例)

スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

■ Windows 7 の場合

1 【スタート】 ボタンをタップする



2  をタップし①、表示されたメニューから【スリープ】をタップする②



(表示例)

スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

2 スリープ機能を強化する

通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリとSSDの両方に保存します。

購入時の状態ではハイブリッド スリープは無効に設定されているため、作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

ハイブリッド スリープを有効にしておくことで、SSDから作業内容を復元できます。ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。この場合は、スリープを実行してからスリープ状態になるまでの時間が長くなります。またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

参照▶ 休止状態に移行する設定について「本項-「役立つ操作集」」

ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

1 「コントロールパネル」を起動する

■ Windows 8.1 の場合

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② [Windows システムツール] の [ コントロールパネル] をタップする

■ Windows 7 の場合

- ① [スタート] ボタン → [コントロールパネル] をタップする

2 [ハードウェアとサウンド] → [電源オプション] をタップする

3 選択している電源プランの [プラン設定の変更] をタップする

[プラン設定の変更] は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの [プラン設定の変更] をタップしてください。

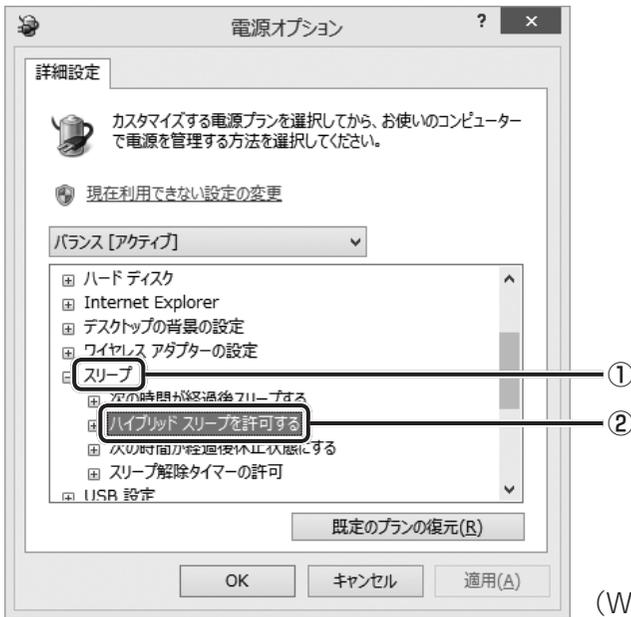
ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。

[プラン設定の編集] 画面が表示されます。

4 [詳細な電源設定の変更] をタップする

[詳細設定] 画面が表示されます。

- 5** [スリープ] をダブルタップし①、表示される項目から [ハイブリッドスリープを許可する] をダブルタップする②



(Windows 8.1 の場合の表示例)

- 6** ハイブリッドスリープをONにしたい項目 ([バッテリー駆動] / [電源に接続]) をタップする

それぞれの項目は、次のようになります。

[バッテリー駆動] : バッテリー駆動時の、ハイブリッドスリープ機能のON/OFFを設定できます。

[電源に接続] : 電源に接続しているときの、ハイブリッドスリープ機能のON/OFFを設定できます。

- 7 項目の横に表示された▼をタップし①、表示されたメニューから [オン] をタップする②



(Windows 8.1 の場合の表示例)

- 8 [OK] ボタンをタップする

これでハイブリッドスリープを有効にする設定は完了です。

この状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。

[詳細設定] 画面で [次の時間が経過後休止状態にする] をダブルタップし、表示された項目を選択して▲▼で時間を設定してください。

スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照▶ 休止状態「本節 5 休止状態」

5 休止状態

パソコンの使用を中断する場合、設定によって、自動的に休止状態にできます。

参照▶ 休止状態にするための設定「本節 **6** 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

休止状態になると、パソコンの使用を中断したときの状態がSSDに保存されます。

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。電源スイッチを押すと、中断時の状態が再現されます。

1 休止状態の実行方法

■ Windows 7 の場合

Windows 7 の場合は、次の方法でも休止状態にできます。

1 [スタート] ボタンをタップする



2 [スタート] ボタンをタップし①、表示されたメニューから [休止状態] をタップする②



休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

6 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

パソコン本体の電源スイッチを押したときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 「コントロールパネル」を起動する

■ Windows 8.1 の場合

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② [Windowsシステムツール] の [ コントロールパネル] をタップする

■ Windows 7 の場合

- ① [スタート] ボタン → [コントロールパネル] をタップする

2 [ハードウェアとサウンド] をタップする

3 [電源ボタンの動作の変更] をタップする

4 [電源ボタンを押したときの動作] で [スリープ状態] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する

[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。

[バッテリー駆動] 時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 [変更の保存] ボタンをタップする

パソコン本体の電源スイッチを押すと、手順 **4** で設定した状態へ移行します。

3

バッテリーについて

1章

パソコンの取り扱い

本製品には、バッテリーパックが内蔵されています。

本製品を初めて使用するときは、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。

バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（電源コードとACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させてください。

指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意ください。『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危険

● 本製品に内蔵されているバッテリーパックを使用する

お客様ご自身でのバッテリーパックの取りはずしや交換はできません。

寿命などで交換する場合のお問い合わせ先は、『困ったときは』を確認してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

参照 ▶ お問い合わせ先『困ったときは 付録 2 サービス&サポートのご案内』

お願い バッテリーを使用するにあたって

- あらかじめ次の説明を確認してください。

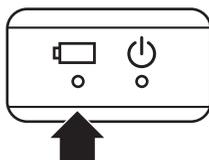
参照 ▶ 「付録 1 - 3 バッテリーの使用／充電について」

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケータで確認する

電源コードとACアダプターを接続している場合、Battery  LEDが点灯します。



Battery  LEDは次の状態を示しています。

白色の点灯	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要
白色の点滅	故障の可能性がある 東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
消灯	電源コードとACアダプターを接続していない 電源コードとACアダプターを接続していても消灯している場合は、 バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡 してください。

2 通知領域の【バッテリー】アイコンで確認する

通知領域の【バッテリー】アイコン（ または ）をタップすると、バッテリー充電量が表示されます。
また電源プランなども表示されます。

参照 省電力設定（電源プラン）について「本章 **4** 省電力の設定をする」



(Windows 8.1 の場合の表示例)

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの残量が少ないことを示しています)
- バッテリーのアラームが動作する

「電源オプション」で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

Windows 8.1 の場合は、「電源オプション」で [プラン設定の変更] → [詳細な電源設定の変更] をタップして表示される [詳細設定] タブの [バッテリー] → [低残量バッテリーの通知] や [低残量バッテリーの動作] で設定してください。

Windows 7 の場合は、「電源オプション」で [プラン設定の変更] → [詳細な電源設定の変更] をタップして表示される [詳細設定] タブの [バッテリー] → [バッテリー低下の通知] や [バッテリー低下の操作] で設定してください。

参照 省電力設定 (電源オプション) について「本章 **4** 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちにパソコン本体に電源コードと AC アダプターを接続し、充電してください。

購入時は、Windows 8.1 では [バッテリー切れの動作] → [バッテリー駆動] が、Windows 7 では [バッテリー切れの操作] → [バッテリー駆動] が、休止状態に設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源が切れます。

メモ

- 1 ヶ月以上の長期にわたり、電源コードと AC アダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [バッテリー] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1 ヶ月に 1 度は再充電することを推奨します。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

4 時計用バッテリー

本製品は、時計用バッテリー内蔵モデルです。

バッテリーパックの一部を、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーとして使用しています。時計用バッテリーが不足すると、メッセージが表示されます。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 3 - バッテリーを充電するにあたって」

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

Battery  LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源のON/OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが白色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery  LEDがオレンジ色に点灯します。
Battery  LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。電源コード、ACアダプターの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。詳しくは、『*****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳しくは、『*****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■ バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために電源コードとACアダプターを接続してご使用ください。

■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。

バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

参照 ▶ ハイブリッドスリープについて「本章 **2** - **4** - **2** スリープ機能を強化する」

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- パソコン本体を長時間使用しないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- おもに電源コードとACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- Windows 8.1の場合は「TOSHIBA ecoユーティリティ」で、Windows 7の場合は「東芝バッテリーマネージャー」で「eco充電モード」を有効にすると、バッテリー充電完了時の容量をフル充電より少なめにおさえて、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。
参照▶「本章 4 - 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」、
「本章 4 - 3 - 3 東芝バッテリーマネージャー」
- 1ヵ月に1度は、電源コードとACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー消費をおさえる方法

バッテリーの消費をおさえて、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする
参照▶「本章 2 - 5 休止状態」
- 省電力の設定をする
参照▶「本章 4 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーパックは、消耗品です。「東芝PCヘルスマニタ」を使用すると、バッテリーパックを交換する目安を調べることができます。

- **参照**▶「東芝PCヘルスマニタ」について『はじめに』

4

省電力の設定をする

1章

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。

これらの電源設定を電源プランといいます。

「電源オプション」では、使用環境に合わせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。

購入時には、次の電源プランが用意されています。

● バランス

必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。

● eco

東芝の推奨する設定により、消費電力をおさえます。

参照▶ 「本節 2 TOSHIBA eco ユーティリティ」

● 省電力

パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力をおさえます。

バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。

● 高パフォーマンス

パフォーマンスと応答速度を最大にします。消費電力が増える可能性があります。

バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されません。

* 「省電力」、「高パフォーマンス」は「追加プランの表示」の  をタップすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。

参照▶ 電源プランの設定変更、新規追加『「電源オプション」のヘルプ』

起動方法

1 「コントロールパネル」を起動する

■ Windows 8.1 の場合

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② [Windows システムツール] の [ コントロールパネル] をタップする

■ Windows 7 の場合

- ① [スタート] ボタン → [コントロールパネル] をタップする

2 [システムとセキュリティ] → [電源オプション] をタップする

「電源オプション」が起動します。



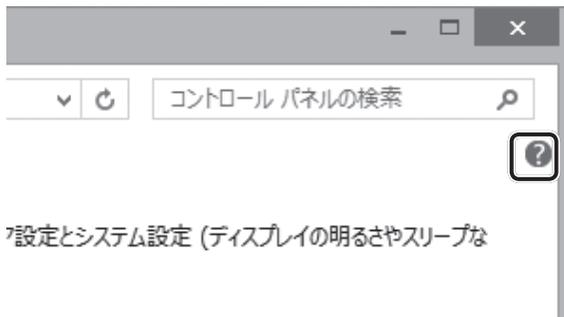
メモ

- Windows 8.1 の場合、「電源オプション」は、「TOSHIBA eco ユーティリティ」からも起動できます。

参照 ▶ 本節 **2** TOSHIBA eco ユーティリティ

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをタップする



(Windows 8.1 の場合の表示例)

2 表示された一覧から知りたい項目をタップする

該当するページが表示されます。

2 TOSHIBA ecoユーティリティ

1 章

パソコンの取り扱い

1 Windows 8.1 の場合

「TOSHIBA ecoユーティリティ」では、パソコンの消費電力をおさえるためのさまざまな設定が行えます。

■ecoモード

「ecoモード」を有効にすると、東芝の推奨する設定によって、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

■貢献履歴

消費電力の低減によって、どれだけ環境の保護に貢献できたかが、イメージやグラフなどで表示されます。

一日ごと、または月ごとに確認できます。

■ピークシフト

昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現します。たとえば夏期の日中など電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に充電したバッテリーでパソコンを動作させる電源管理機能を備えています。

ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。

お願い

- ピークシフトをご利用の場合、自動的にバッテリー駆動に切り替わり、CPUやグラフィックアクセラレーターの性能が十分に発揮されない場合があります。映像や音楽を視聴する場合、ピークシフトを一時的に無効にすることをおすすめします。

■バッテリーライフサイクル

バッテリーの充電方法の「eco充電モード」を有効にすると、バッテリーフル充電時の容量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅くできます。パソコンの電源コードとACアダプターをコンセントに接続したまま使用される方におすすめです。ただし、バッテリーのフル充電の容量が少なくなるため、バッテリーでの駆動時間は短くなります。

キーボードドックを接続している場合、タブレットのバッテリーとキーボードドックのセカンドバッテリー*¹にそれぞれ「eco充電モード」を設定できます。

* 1 キーボードドックにセカンドバッテリーが内蔵されている場合のみ



- 表示されるメニューは、モデルにより異なります。

起動方法

1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする

2 [TOSHIBA] の [ eco ユーティリティ] をタップする

初回起動時は、[はじめにお読みください] 画面が表示されますので、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをタップしてください。

[TOSHIBA eco ユーティリティ] 画面が表示されます。



(表示例)

3 画面左側から設定するメニューをタップする

「TOSHIBA eco ユーティリティ」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 [TOSHIBA eco ユーティリティ] 画面で [ヘルプ] をタップする

「TOSHIBA eco ユーティリティ」のヘルプが表示されます。

2 Windows 7の場合

東芝の推奨する設定により、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

詳しくは、「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

1章

パソコンの取り扱い

起動方法

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [ecoユーティリティ&省電力] → [ecoユーティリティ] をタップする

初回起動時は、[はじめにお読みください] 画面が表示されますので、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをタップしてください。

[TOSHIBA ecoユーティリティ] 画面が表示されます。

ヘルプの起動方法

1 [TOSHIBA ecoユーティリティ] 画面で [ヘルプ] ボタンをタップする

[TOSHIBA ecoユーティリティ] のヘルプが表示されます。

3 その他のユーティリティ

1 ディスプレイ省電テクノロジー

* ディスプレイ省電テクノロジー搭載モデルのみ

「ディスプレイ省電テクノロジー機能」は、本体ディスプレイに表示する映像のコントラストと明るさを自動的に調整することにより、パソコンの電力消費を低減させるものです。

バッテリー駆動で使用中にこの機能が使用できます。

本機能は購入時の状態では、有効に設定されています。本機能を無効にする場合には、次の手順で設定してください。

1 デスクトップ画面上で、ウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所で、長押しする

2 [グラフィックス・プロパティ] をタップする

3 [電源] をタップする

4 [電源] の右側にある  をタップし、表示されたメニューから [バッテリー駆動] をタップする

5 [ディスプレイ省電テクノロジー] で [オフ] または [無効] をタップする

6 [適用] をタップする

メッセージが表示されます。確認して [はい] ボタンをタップしてください。

本機能を有効にする場合は、[ディスプレイ省電テクノロジー] で [オン] または [有効] をタップしてください。

2 東芝ピークシフトコントロール

* Windows 7のみ

「東芝ピークシフトコントロール」は、昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現する機能です。たとえば夏期の日中のように、電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に蓄えたパソコンのバッテリーで動作させる電源管理機能で、環境への負荷低減に貢献することができます。

ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。

使用方法については、ヘルプを参照してください。

お願い 東芝ピークシフトコントロールの使用にあたって

- バッテリーパックは消耗品です。
バッテリーの充放電を一定期間繰り返すためにバッテリーの使用サイクルが進みますので、バッテリーパックの買い替え時期が早まります。
- 動画再生などのアプリケーションは、省電力機能によりスムーズに動作しない場合があります。
- ピークシフトをご利用の場合、自動的にバッテリー駆動に切り替わり、CPUやグラフィックアクセラレーターの性能が十分に発揮されない場合があります。
映像や音楽を視聴する場合、ピークシフトを一時的に無効にすることをおすすめします。

設定方法

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [ecoユーティリティ&省電力] → [ピークシフトコントロール] をタップする
- 2 [東芝ピークシフトコントロール] 画面で、[ピークシフト機能] で [有効] を選択し、[OK] ボタンをタップする

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝ピークシフトコントロール」を起動後、画面右上の [ヘルプ] ボタン () をタップする
- 2 画面上の知りたい項目をタップする

3 東芝バッテリーマネージャー

* Windows 7のみ

「東芝バッテリーマネージャー」は、バッテリーの充電方法を「通常充電モード」と「eco充電モード」から選択することができます。

「eco充電モード」に設定すると、バッテリーフル充電時の容量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

パソコンの電源コードとACアダプターを、コンセントに接続したまま使用される方におすすめです。

ただし、バッテリーでの駆動時間は、バッテリーのフル充電の容量が少なくなるため短くなります。

設定方法

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [ecoユーティリティ&省電力] → [バッテリーマネージャー] をタップする
- 2 [eco充電モード] を選択し、[OK] ボタンをタップする
「eco充電モード」に設定すると、通知領域に [eco充電モード] アイコン () が表示されます。

*** Windows 7のみ**

トウシバ デスク バンド

「TOSHIBA Desk Band」の各アイコンをタップするだけで、割り付けられている機能を簡単に使用できます。

「TOSHIBA Desk Band」は、タスクバーに表示されています。



(表示例)

ローテーションロック

ローテーションとは、使用するときの状態に合わせて、画面の向きが自動的に切り替わる機能です。

アイコンをタップするたびに、画面の自動回転のオン（自動回転する）とオフ（自動回転しない）が切り替わります。

Flash Cards

さまざまな機能を簡単な操作で実行できる、「TOSHIBA Flash Cards」を起動します。画面の輝度調節や無線通信機能のON/OFF、電源プランの変更などを、画面に表示されたカードから操作できます。

参照▶「本章 6 TOSHIBA Flash Cardsについて」

App Switcher

起動しているアプリケーションの一覧を表示します。各アプリケーションを切り替えたり、終了させたりすることができます。

Zoom

アイコンをタップし、表示される [拡大鏡] 画面を操作すると、画面の表示サイズを変更できます。

[拡大鏡] 画面を閉じると、100%表示に戻ります。

メモ TOSHIBA Desk Bandを再表示するには

- 購入時の状態では「TOSHIBA Desk Band」は有効になっており、常に画面に表示されています。一度非表示にした「TOSHIBA Desk Band」を再表示する場合は、次の操作を行ってください。

- ① タスクバーを長押ししてメニューから [ツールバー] をタップする
- ② 表示されたメニューから「TOSHIBA Desk Band」をタップしてチェックを付ける

* Windows 7のみ

トウシバ フラッシュ カード

「TOSHIBA Flash Cards」は、デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

操作方法

- 1 タスクバーに表示されている「TOSHIBA Desk Band」のをタップする

「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。

- 2 設定したい機能のカードをタップする



(表示例)

カードとアイコンが表示されます。



- アイコンを長押しすると、アイコンの機能名を表示できます。

- 3 設定したいアイコンをタップする

タップしたアイコンの機能に設定されます。

「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

「TOSHIBA Flash Cards」の詳細は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

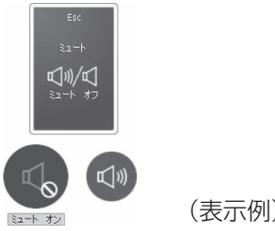
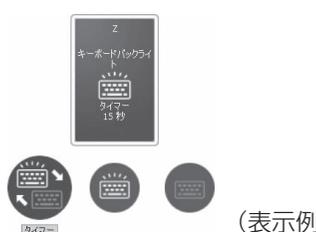
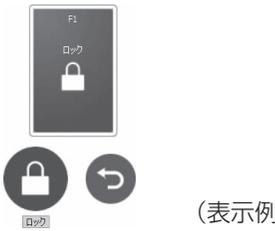
- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cards] をタップする

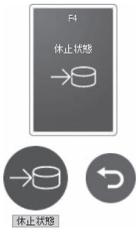
[Flash Cardsの設定] 画面が表示されます。

- 2 [ヘルプ] ボタンをタップする

「TOSHIBA Flash Cards」を使った便利な機能

表示されたカードのアイコンをタップすると、いろいろな操作が実行できます。
表内の画像は、アイコンを長押しし、アイコンの下に機能名を表示している状態です。

カード	内容
<p>[ミュート] のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p>表示されたアイコンをタップすると、本体のスピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON/OFFが切り替わります。</p>
<p>[キーボードバックライト] のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p>キーボードドックを接続している場合、表示されたアイコンをタップすると、キーボードバックライトの点灯のON/OFFが切り替わります。  (タイマー) をタップすると、キーボードバックライトがキーボードのキーを押してから一定時間点灯します。</p>
<p>[ロック] のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p> (ロック) をタップすると、コンピューターをロックします。解除するには、ユーザー名をタップしてください。Windows ログオンパスワードを設定している場合は、Windows ログオンパスワードを入力し、[Enter] キーをタップしてください。</p>
<p>[電源プラン] のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p>表示されたアイコンをタップすると電源プランが切り替わります。  (eco) をタップすると、設定されている電源プランが「eco」に設定されます。</p>
<p>[スリープ] のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p> (スリープ) をタップすると、スリープ機能が実行されます。</p>

カード	内容
<p>〔休止状態〕のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p> (休止状態) をタップすると、休止状態になります。</p>
<p>〔ディスプレイ表示〕のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p>表示されたアイコンをタップすると表示装置が切り替わります。 参照▶『活用編』</p>
<p>〔輝度〕のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p>スライダバーのつまみを左へドラッグすると、本体ディスプレイの輝度が下がります。また、スライダバーのつまみを右へドラッグすると、本体ディスプレイの輝度が上がります。</p>
<p>〔ワイヤレス〕のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p>表示されたアイコンをタップすると、無線通信機能（無線LAN機能／Bluetooth機能*¹）のON／OFFが切り替わります。 （すべてオン）をタップすると、すべての無線通信機能はONになります。 （すべてオフ）をタップすると、すべての無線通信機能はOFFになります。</p>
<p>〔タッチパッド〕のカード</p>  <p>(表示例)</p>	<p>キーボードドックを接続している場合、表示されたアイコンをタップすると、キーボードドックのタッチパッドの有効／無効が切り替わります。</p>

* 1 Bluetooth機能搭載モデルのみ

カード	内容
<p data-bbox="197 170 469 195">[アローモード] のカード</p>  <p data-bbox="440 407 532 432">(表示例)</p>	<p data-bbox="557 170 1237 272">キーボードドックを接続している場合、表示されたアイコンをタップすると、キーボードドックのキーボードのアローモードのON/OFFが切り替わります。</p> <p data-bbox="557 282 1237 384">アローモードにすると、キー左下に灰色で印刷されているカーソル制御キー（↑、↓、←、→、HOME、PGUP など）として使えます。</p>
<p data-bbox="172 473 493 498">[数字ロックモード] のカード</p>  <p data-bbox="440 710 532 736">(表示例)</p>	<p data-bbox="557 473 1237 575">キーボードドックを接続している場合、表示されたアイコンをタップすると、キーボードドックのキーボードの数字ロックモードのON/OFFが切り替わります。</p> <p data-bbox="557 585 1237 649">数字ロックモードにすると、キー右下に灰色で印刷されているテンキー（1、2、3など）として使えます。</p>
<p data-bbox="234 776 433 801">[ズーム] のカード</p>  <p data-bbox="440 1008 532 1033">(表示例)</p>	<p data-bbox="557 776 1237 840">表示されたアイコンをタップすると、本体ディスプレイの解像度が切り替わります</p>

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願い、技術基準適合などについて記載しています。

1	ご使用にあたってのお願い	44
2	技術基準適合について.....	46
3	外形寸法図	49

1

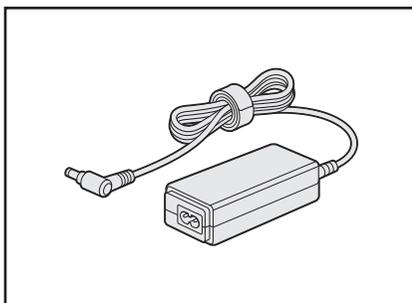
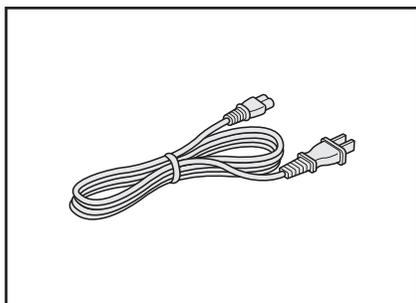
ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。搭載されている機能やアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

ご購入のモデルの仕様については、『* * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて

- 電源コードやケーブルは束ねずに、ほどいた状態で使用してください。ご使用時は、あらかじめ『安心してお使いいただくために』に記載されている記述をよく読み、必ず指示を守ってください。
- 電源コードやACアダプターを持ち運ぶときには、次の図のように正しくケーブルを束ねてください。



電源コード、ACアダプターは、購入されたモデルにより異なります。

2 周辺機器について

パソコン本体への機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は機器によって違います。1章および『活用編』を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
 - ・ ホットインサージョンに対応していない機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
 - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
 - ・ ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
 - ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
 - ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
 - ・ 本書および『活用編』など各種説明書で説明している場所のネジ以外は、ゆるめたり、取りはずしたりしないでください。
 - ・ 本書および『活用編』など各種説明書の説明に従って作業するときは、使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
 - ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
 - ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
 - ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

3 バッテリーの使用／充電について

バッテリーを使用するにあたって

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーと時計用バッテリーを充電してください。

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

一般社団法人 電子情報技術産業協会の「PC用バッテリー関連Q&A」について
<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14>

瞬時電圧低下について

この装置は、一般社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 ▶ 「Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」 について 『困ったときは』

「FCC information」 について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor ports, Universal Serial Bus (USB 2.0) ports, HDMI out port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

EU Declaration of Conformityについて



This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site

<http://epps.toshiba-teg.com> on the Internet.

CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably RoHS Directive 2011/65/EU and Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.

For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.

The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

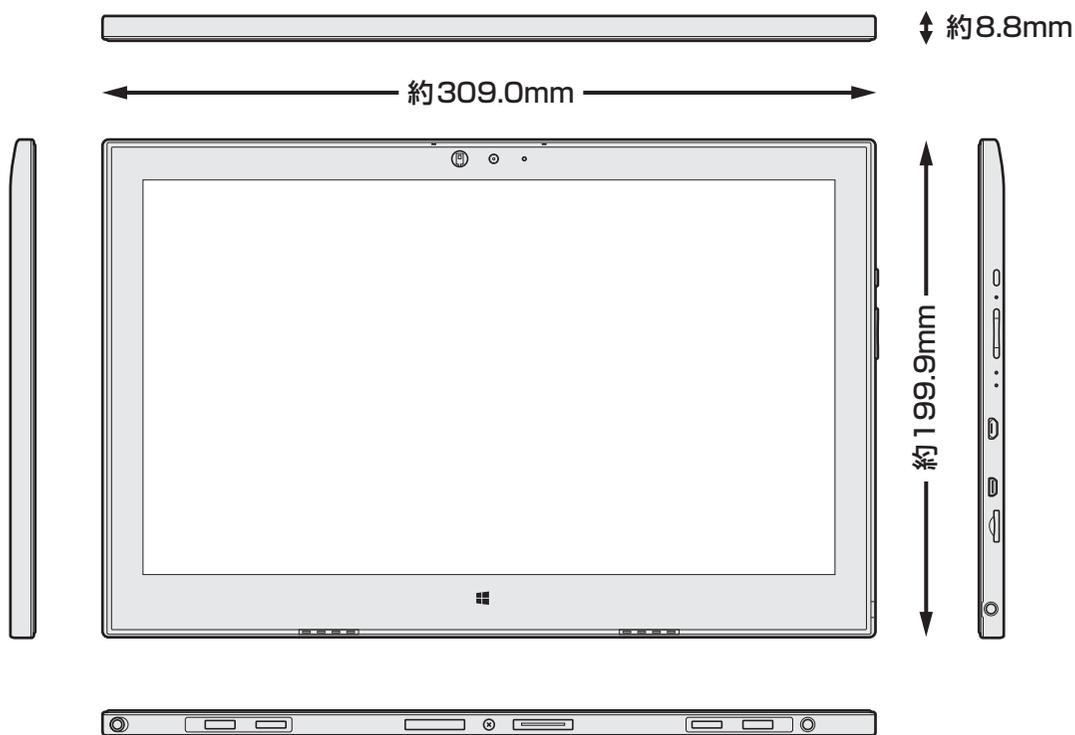
Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

3

外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



付録